

# であいこうか

DEAI 15 KOKA  
地域で活躍されている元気な方を紹介するコーナーです。

小原再発見クラブ代表  
相楽貞喜さん(信楽町小川出)



## 聞いて、見て、知って 次世代へ

自分の住んでいる地域には愛着があるものです。たまには昔話に花が咲きます。でも、それがまとまった記録として残っていることは意外なほどありません。

「新しい世代に地域の歴史を残すことができれば」そんな思いから地域の人に呼びかけ、5年前「小原再発見クラブ」を発足した相楽さん。同クラブは、相楽さんの呼びかけで集まった、郷土に思いを

## 甲賀の文化、生活を体験

～姉妹都市交流でデウィット中学生が来市～

5月3日から10日までの1週間、姉妹都市であるアメリカ合衆国ミシガン州デウィット市、デウィットチャータータウンシップのデウィット中学校の生徒が本市を訪問しました。

この訪問は、姉妹都市交流事業の一つで、受け入れる市内中学生は、今年1月にデウィット市を訪問した生徒で、4か月ぶりの再会となりました。

滞在期間中、デウィット中学生は、ホストファミリーや市内中学生と一緒に陶芸、茶摘み、忍術などの甲賀の文化や学生生活を満喫しました。

また、8日にはインターネット回線を利用して、画像と音声をもってリアルタイムに対談する「ビデオカンファレンス」が行われ、お互いのホストファミリーが、画面を通して交流を深めました。ビデオカンファレンスには中嶋市長も出席、デウィット市関係者と情報交換を行いました。

デウィットとの交流事業は、今回で10回目となります。10回目を記念し、当初から交流にご尽力いただいた、デウィット中学教諭ローレンス・アルバナスさんに中嶋市長から感謝状が手渡され、これからのさらなる友好を約束しました。



画面の向こうのホストファミリーと再会



さらなる友好を誓って握手する中嶋市長とアルバナスさん



祭りを盛り上げた子ども神輿

この日は天気にも恵まれ、陽射しが瀧樹の森に降りそそぎ、かわいく踊る子どもたちを照らしました。地元や観光客ら多くの見物人は、盛んにカメラのシャッターを押し、祭りを楽しみました。

## 華やかな羽飾り映える

～瀧樹神社ケンケト踊り～



ケンケト踊りを奉納する地元の子ども

5月3日、土山町瀧樹神社で、国選択無形文化財、ケンケト踊りの奉納が行われました。

ケンケト踊りは、地元の子どもが、大きな羽飾りと華やかな衣装を身につけ、「ケンケト ケンケン」の掛け声と囃子にあわせて片足でぴよんぴよん飛び跳ねる踊りです。



中嶋市長に決意の言葉を述べる信楽福祉会の水落拓也さん

## まちづくりの一翼を担って

～新就職者激励会～

市内にはいくつもの事業所があり、そこで働く方すべてが活気あるまちづくりの原動力となっています。今年4月にも多くの方が入社し、活躍しようとしています。

5月15日、忍の里プラザで新就職者激励会が開催され、市内の事業所に就職された230名が参加しました。

中嶋市長から「立場を自覚し、家族、会社が安心できるようにがんばって欲しい、エネルギーあふれる皆さんの活力を期待する」と激励の言葉があり、参加者の皆さんは緊張した表情で聞き入っていました。

その後、人権に関するトークを交えたライブが行われ、フレッシュな皆さんにとって、有意義な時間となりました。

これからの甲賀市の新しい原動力、活躍が期待されます。



陶芸体験教室の様相

## 伝統工芸士が直接指導

信楽焼伝統工芸士会福祉チャリテイバザー

甲賀市を訪れていただいた方にやきものについての理解を深めてもらい、また信楽焼のファンづくりに取り組もうと信楽焼伝統工芸士福祉チャリテイバザーが開催されました。

この催しは、収益の一部を市の福祉団体に寄付するチャリテイ事業で、4月26日から5月6日まで市役所信楽支所横の駐車場で行われました。会場では、伝統工芸士の作品の販売や展示、伝統工芸士による制作実演が実施されました。

また期間中には、来場者が無料で陶芸体験教室が行われる日もあり、多くの親子が作陶を楽しんでいたようです。

今後もうこうした催しが行われ、産業振興や甲賀市全域の活性化につながることに期待が寄せられます。

寄せる大谷惟司さん、兼松重雄さん、岸之上美智子さん、杉中寛さん、鈴木和夫さん、寺田健児さん、寺田督男さん、中島武さんと結成されました。

そんな小原再発見クラブが今まで調べてきた歴史が、このほど「小原再発見―神社・寺院調査書―」として発刊されました。この冊子はクラブのメンバーの皆さんが調査か

小原再発見―神社・寺院調査書―

ら編集まですべて行った作りの冊子です。若い人に地域の昔話を少しでもわかってもいい、伝えていきたいという思いが発展し冊子の作成へつながったそうです。しかし断片的にある資料を時代の流れに沿ってまとめるのがかなりの苦勞で、完成するまでに4年かかりました。

そこには、多くの写真、詳細に渡る調査、解説があり同クラブの郷土への思いが伝わってきます。

「聞いて、見て、知るをモットーに進めてきました。みんなでわいわい言いながら何かを発見する、それが楽しい

んです」と相楽さん。

今回、郷土愛が一つの成果となりましたが、郷土を愛する気持ちは尽きません。今後いろいろな形で地元の魅力を紹介、次世代へ伝えていきたいと、これからのクラブについては、構想を練っている最中だそうです。相楽さんをはじめ、クラブの皆さんの思いはこれからもずっと受け継がれていくはず。

ちなみに、今回作られた冊子は市内の図書館、公民館等で閲覧できます。歴史資料として、そして郷土愛の物語として多くの皆さんに読まれることでしょう。